

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1(高等学校)

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校（全日制）
-----	-------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度は、学校教育目標を達成すべく、年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組み、「概ね達成できた」と考える。</li> <li>工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切であるが、生徒アンケートでは「家庭学習の定着」の項目が低評価であった。本年度は取り組みを充実させたい。</li> <li>今年度は学科改編し6学科6クラスの完成年度となる。興味・関心の高まる教育課程を編成し、将来を見据えた工業教育の活性化を図りたい。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域産業の発展のみならず、日本の産業界を牽引し、倫理観をもって未来に貢献する優秀な工業技術者を育成する。</li> <li>主体的な学び、協働学習、探究活動を重視した教育を実施し、時代に即した柔軟な考え方を創造できる力を育む。</li> <li>専門分野の基礎的な知識・技術を習得するとともに、先端的技術と融合させた学習を取り入れ、文武バランスの取れた環境を整えることで、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成する。</li> </ul>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>○“ものづくり”から“者（ひと）づくり”そして“未来（あす）づくり”</p> <p>ア 新たな課題への着実な対応      イ 深い生徒理解に基づく指導      ウ 規律ある高校生活の定着</p> <p>エ ものづくり教育の推進      オ 部活動の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わかる授業の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の充実</li> <li>○資格取得の推進 ・各科の重点資格と基礎資格の合格率の増加 ・ジュニアマイスターの取得者の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業アンケートにおいて丁寧で分かりやすい授業と感じている生徒95%以上を目指す。</li> <li>○資格取得において80%以上の合格率を目指す。 ○ジュニアマイスター取得者数、ゴールドとシルバーで50人以上、ブロンズを含め100人以上の取得を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内において研究授業、公開授業を行い、職員相互で良いところを取り入れ、分かりやすい授業を目指す。</li> <li>・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・全員受験基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。</li> </ul>
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</li> <li>◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の状況把握に努め、長期欠席者0(ゼロ)にする。</li> <li>○年間で7回以上のいじめアンケートを実施する。 ○生徒が安心して学校生活を送ることができるように相談環境を整える。</li> <li>◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかといえば感じる」と回答した生徒80%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の教育に関する講話を学期に1回行い、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう努める。</li> <li>・いじめアンケートの結果をもとに教職員やスクールカウンセラーとの連携を密にし、早期発見・早期対応に努める。 ・常時、生徒が相談できる環境を整え、生徒の居場所をつくる。</li> <li>・「佐賀語り」を活用し、佐賀県の良さを再発見させる。また、ふるさと佐賀の課題を設定しクラス討議を行う。 ・外部指導者を招聘し、郷土愛を育む講演を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SOSの出し方や相談の重要性について啓発活動を行った結果、昨年度に比べ相談件数は増加し、人間関係に関する悩みや、いじめ事案が減少に転じた。次年度も引き続き啓発活動を積極的に行っていくたい。</li> <li>・連続した長期欠席者は病気以外はゼロであった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話の内容が「SOSの出し方」という具体的なものであることが良い。</li> <li>・「人間関係に関する悩みや、いじめ事案が減少に転じた」とのことです素晴らしい。</li> </ul>
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成</li> <li>●安全に関する資質・能力の育成 ○「モラル」の形成 ・交通に関するモラル ・SNS利用に関するモラル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を目指す。 ○朝食を毎日食べる生徒90%以上を目指す。</li> <li>○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○ネットハトロール指導事業を0(ゼロ)にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、保健だより、ホームページ等で食事と健康に関する情報を家庭・地域に発信する。 ・関連する教科等において食に関する指導の視点を位置づけて指導するための共通理解を図る。</li> <li>・各種集会(学年、全校)で、具体的事例を挙げた講話を行い、生徒のモラルの向上を図る。 ・生徒の安全に対して、警察と連携を密にし、モラルの向上に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関するアンケートで、「食事をしっかりとることは大切」と99.5%の生徒が実感しており、昨年度よりさらに意識が高まったことがわかる。しかし、「朝食を食べない日が多い」「食べない」生徒が9.2%いる。規則正しい生活習慣を持ち、朝食を摂る時間的な余裕を持つことが必要であると同時に、保護者が食事を用意できない家庭も増えているようだ。今後、健康を考えた自身の食生活を充実させることができる実践力を付けさせる必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を食べないことのある生徒が、9.2%いるということが分かったことが評価できる。そこに存在する問題に深刻なものがないか気を付けてほしい。</li> <li>・保護者が食事を用意できない場合の適切な対応が難しいと思うが、経済的理由であれば公的な支援が望まれる。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li> <li>○事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・教職員の時間外在校等時間の年間平均を昨年より10%削減する。</li> <li>○教育行政職員の専門性を活かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務を見直し、業務の効率化を図ることにより個人負担を軽減する。 ・定時退勤推進日、部活動休業日、学校閉庁日を設定し、時間外勤務時間の縮減とともに休暇を取得しやすいようにする。</li> <li>・教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故に関しては、昨年度に比べ増加傾向にある。自動車との接触が多数を占めているものの、事故の原因には生徒側の確認不足等も警察より指摘を受けている。次年度はより一層の安全に関する意識の向上に努める必要があると思う。</li> <li>・SNSの不適切な使用については、表面上は件数が減少傾向にあるが、引き続きモラルの向上に努める必要があると考えている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の件数が増加傾向について、定期的な注意喚起を随時する必要があると思う。</li> <li>・ネット上の不適切な書き込みが引き起こす恐ろしい結果等を伝え、引き続き指導していただきたい。</li> </ul>
				B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の健康観察をFormsで業務の効率化を図るなど、業務をできる限りデジタル処理できるようにしている。また採点業務デジタル化の検証にも取り組み、ICT機器の活用を増やし業務効率を改善できた。今後、欠席連絡について、活用場を広げていきたい。</li> <li>・教職員の時間外在校等時間は2月末現在で平均30時間を切り、昨年度比10%減を達成した。会議の時間においても意識して時間調整しており、勤務時間内にはほぼ終了している。</li> <li>・部活動では休業日の積極的な確保を動めている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が概ね達成されており素晴らしい。</li> <li>・時間外在校等時間が平均30時間というのは、まだ多いと思う。先生に余裕がなければ指導も行き届かないと思うので、ぜひ改善を続けてほしい。</li> </ul>
				B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からの要望を聞きながら施設・備品の修理や購入を進め、教育環境の改善をすることができた。</li> <li>・物品の購入に優先順位をつけ、物価・電気代の高騰を影響を最小限にすることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の評価が低めなのは、更なる改善が必要ないし、改善可能なところがあるとと思われる。</li> <li>・もし可能であれば分かりやすい具体的な目標設定をお願いしたい。</li> </ul>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒・保護者の希望や要望に応じた進路指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路意識を高め、職業観・勤労観を育成し、キャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の1次合格率を95%を目指し、年内の進路決定100%を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の就職先や進学先でのミスマッチを防ぐ観点からも、企業や大学等からの詳細な情報提供や個人面談を行う。</li> <li>・企業への訪問を積極的に行い、情報収集を行う。</li> <li>・進学者対策として、補習等で基礎学力を向上させる。 ・面接や集団討議の指導を実施する。</li> </ul>
★ものづくり教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>★実習・課題研究等の学習をとおして協働する態度を育む</li> <li>○各種ものづくり大会での全国出場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★互いに協力し合って学習に取り組めたとする生徒80%以上を目指す。</li> <li>○各種大会で3つ以上の全国大会出場を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的、探究的学びを取り入れ、実習のアップデートを図っていく。</li> <li>・生徒同士で切磋琢磨する環境づくり、実践的な指導を取り入れていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートにおいて、授業中に友達と話し合ったり、共同して取り組んだりする時間が十分あったと答えた生徒が77.5%だった。どちらかといえばあったの回答を含めると95.8%と主体的・協働的な学習が実現できている。</li> <li>・ものづくりコンテストでの全国大会出場はできず、若年者ものづくり大会のみとなった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「互いに協力し合って学習に取り組めたとする生徒」が目標を大幅に上回ったものの、目標はほぼ達成されており素晴らしい。一つも全国大会出場があることは他の生徒の励みにもなると思う。</li> <li>・ものづくりコンテストの出場は、今後も大いに頑張ってもらいたい。</li> </ul>
○部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動を通し、幅広い人間関係の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートにおいて部活動で、よりよい人間関係を築けた生徒80%を目指す。 ・部活動加入率90%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無所属の生徒に部活動紹介や加入についての呼びかけを行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・90%以上の生徒が部活動及び社会体育に所属している。また、生徒アンケートにおいて97%の生徒が部活動を通してより良い人間関係を築くことができたと回答した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成されており素晴らしい。事情で部活動ができない生徒へのケアも大切と思う。</li> <li>・部活動の指導で、時間外の在籍時間が増えていないかと思う。さらに外部指導者の予算を増やしてほしい。</li> </ul>

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来に貢献できる工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切と考える。実習・課題研究では互いに学び合える授業展開が図られているが、その他の科目においても推進していきたい。</li> <li>学科の特色をさらに強め、興味・関心を誘う教育課程を編成し、将来を見据えた工業教育の活性化を図りたい。</li> <li>進路指導では高い就職率を誇っており、県内外へ卒業生を輩出してきたが、四年制大学等への進学指導体制の再構築を進めたい。</li> </ul>
----------------	---